

アメリカ合衆国 Vista PEAK Preparatory 宮下さん

留学期間：R5.7～R6.6（1年間）

私は7月末よりアメリカのコロラド州で交換留学をしています。コロラド州はアメリカの中央に位置し、1日の気温の寒暖差が激しい地域です。またヒスパニックやアジア人など人種は様々ですが基本的に英語の訛りはほとんどないと言われています。

人生初の海外ということもあり、留学当初は五感で感じるもの全てに驚き、高揚していました。しかし5ヶ月経った今は自分がアメリカに溶け込んでいるという感覚があります。

戸惑いや楽しさ、後悔など日々色々な感情が交錯していますが、笑顔でいることを一番に選ぶようしています。そのように思うことができたのは、アメリカ人の朗らかさのおかげだと自負しています。街を歩いていても、食堂でご飯を食べていても、私と目が合うとにこっと微笑んでくれます。だから私も本心で笑うことができています。もちろん中には話しかけても無視されたり、冷たい態度で接せられたりすることもあります。優しいアメリカ人を見つける「ゲーム」と捉えて、心は折れながらも足掻いています。

「アメリカに3ヶ月留学すれば、英語ペラペラになる」私はこの言葉にたくさん苦しめられました。月日が経つにつれ、3ヶ月へのカウントダウンが始まり、一向に”上達しない”自分の英語力に対する焦りと不安、それに対し自主的に英語を使えなかったことへの罪悪感に押しつぶされそうになっていました。ですが主に2つのことを意識して、この暗いトンネルを抜け出すことができました。1つ目は、アプローチ方法を変えることです。英語を会話の手段として利用するために、私は紙とペンを使わないようにしました。なぜなら紙とペンを使う方法だと勉強しています！という感じがして、継続しにくいからです。2つ目は、自分の成長を実感することです。SLAという第二言語習得のプロセスを知ったことが私にとって大きな転機となりました。自分の英語力を客観的な視点から認識でき、過去の努力を認めることができました。結果として、現在は日本語と同じ感覚で7割は英語で会話できています。

私はLGBTQ(性的少数者)の友人がたくさんいます。彼らと出会い、仲を深め、男女という概念さえ疑いたいと思われました。彼らは一人ひとり違うことに対して真っ直ぐです。そのような姿勢から、過去の経験やバックグラウンドに囚われず、柔軟で真摯な姿勢で向き合いたいと思われました。

また、人種差別はアメリカに対する1つのキーワードだと思います。多民族国家でお馴染みのアメリカですが、人種による距離を感じる時もあります。特に”White”や”Black”という言葉に対して彼らは敏感で繊細です。私がホワイト企業とブラック企業について説明した際、あなたたち日本人は人種差別者なの？と言われました。文化の違いが意に反する形で誤解や混乱を招くと強く実感させられました。

たった1人で、17歳という年齢で、言語も文化も違う環境に身を置き、気づいたことは助けを求めることの大切さです。具体的にスクールカウンセラーやローカルコーディネーターと定期的に話す習慣を作ったことで自分を労えるようになり、大丈夫じゃないと言える環境を見つけることができました。助けを求める度、周りの人に支えられて生きていくと実感させられます。

いつでも帰れるホームを作ってくれている家族や友人、福井県留学説明会で体験談をお話しされ、私に留学という選択を与えてくださった奨学生OGの松原さん、ふるさと納税者の方々の温かいご支援が私の励みとなり、より一層この留学に身が入る思いです。本当にありがとうございます。感謝の気持ちを噛み締め、残りの留学生活も精進して参ります！



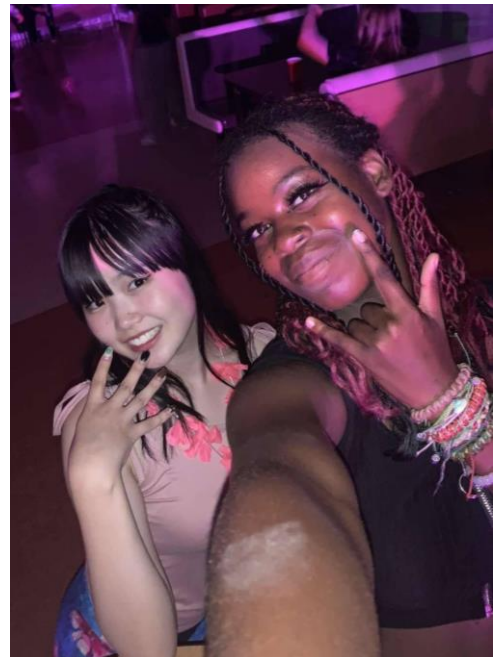
日米コロラド協会のイベントに参加し、おにぎりや年賀状などの日本文化を紹介しました



病を抱える子供達へのプレゼントのラッピングに参加しました



学校のテーマカラーである青色の服で登校しました



トロピカルがテーマのスクールダンスに参加しました



アニメ好きのホストシスターと一緒にアニメのキャラクターと写真を撮りました